

表紙の解説（第2グループ）

石狩川と空知川

流域面積が日本第2位、全長が第3位の大雪山系を水源とする石狩川と、同じく大雪山系を水源とし、石狩川の支流の中で最も長く、広い流域面積を持つ空知川それぞれの流域に第2グループ芦別市、赤平市、砂川市、滝川市があります。

芦別市、赤平市の市街地を沿って流れる空知川は赤平市西部で谷を抜け、石狩平野へ出ると滝川市と砂川市の市境を流れ、石狩川に合流します。また、合流地点南部に位置する砂川遊水地は、石狩川の洪水を防ぐため一時的に水を貯留し、下流の水位を下げ、安全に水を流す役割を持っています。

それぞれの町は自然の中からさまざまな恵みを受けながらあゆみ続けてきました。北海道開拓の時代から開墾されてきた流域は、豊かな穀倉地帯を形成し、農業は地域の重要な産業となっています。また、かつては空知地域の広範囲で国内経済の基盤を支えた石炭の町としても栄えました。

明治23年1月に屯田開拓兵村として滝川村が開村したのに続き、同年8月に隣接した奈江村（現：砂川市）が開村し、開発の進展に伴う分村あるいは合併を経て、石狩川左岸に今日の芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町が形成されました。また、石狩川右岸には、明治23年1月に奈良県吉野郡十津川村の集団移住により開拓された新十津川村が設置され、次いで、同25年2月に華族組合農場として開拓された雨竜村が開村、同32年5月に浦臼村が月形村から分村し、浦臼町、新十津川町、雨竜町3町が形成され、5市5町による現在の中空知圏域が構成されています。

このように、二つの川やその支流は私たちに豊かな潤いを与えてくれ人々は深く関わって暮らしてきました。

石狩川の河川敷に整備されている「たきかわスカイパーク」では、4月下旬～11月中旬のフライト期間、インストラクター操縦のもとグライダーで上空500mから日本海や十勝連峰、空気の澄んだ時には遠く利尻富士も見渡せ、北海道の雄大な大地を楽しむことができます。



雨竜沼湿原上空



砂川遊水地上空



滝川上空からの石狩川・空知川